

いきいきと元気に生活するために

みなさんはどちらを選びますか？

Aさんのケース

Aさん（75歳）は近所を散歩中に骨折してしまい、2ヶ月安静にしていました。骨折は治りましたが、安静中に筋力が低下し、1人で歩いて外出できず、買い物に行けなくなっていました。



パターン①

再び1人で買い物に行けるよう、ヘルパーさんから買い物などの支援を受けながら、自分でできる掃除や食事の準備は自分でやり、リハビリも積極的に取り組みました。



その結果、再び長い距離を歩けるようになりました。以前のように1人で買い物に行き、近くに住む孫に会いに行きます。地域の集まりにも参加し、以前より元気に暮らしています。



パターン②

買い物などの支援だけでなく、掃除や食事の準備など困りごとは、何でもヘルパーさんをお願いしました。また、動くことが億劫になり、リハビリにも消極的でした。



自分でできたこともできなくなり、全身の筋力や機能が衰えて、さらに状態が悪化しました。



いつまでも元気に自宅で生活するために

パターン①のように、介護サービスを利用しつつ、元気になるため、できることは自分でやろうと考えて行動することは、**住み慣れた自宅で元気に生活することにつながります。**





伊予市地域ケア個別会議の概要



伊予市では、これからの高齢社会を支える地域包括ケアシステムを実現する手段として、「地域ケア個別会議」を開催しています。

これは、自立支援（本人の有する能力の維持・向上）を重視したケアプラン作成に向けて、長寿介護課、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職とケアマネジャー等が協働で、ケアプランの検討を行うものです。

【地域ケア個別会議のねらい】

○今よりもっと元気になる

ケアプランは、ご本人の心身の状態や生活状況に合わせて作成するものです。

必要な介護サービスをケアプランに組み込むことはもちろんですが、心身の状態にあわせた生活習慣の改善を重視することで、**今よりもっと元気になることができます。**

それにより健康的に自立した生活を長く続けることにつながります。

○支援者を支援する場所

介護に携わる人々は、良いサービスを提供しようと日々、努力しています。

普段の仕事の中だけでは学べないことも、地域ケア個別会議に参加することでいろいろな専門職種の人たちからアドバイスをもらうことができるので、幅広い考え方が身につきます。

地域ケア個別会議で、高齢者を支えるスキルを磨き、伊予市全体に広げることで、より良いサービスやケアプランを提供することにつながります。

○みんなが暮らしやすい街づくり

地域課題を見つけ、それに合わせた対応策を考えていきます。

《例えば・・・》

「この地域では、介護が必要になる原因としてお食事の問題が多いようだ。」



「身近に買い物の出来る場所がないから、食事回数が少なく体力が落ちてしまう。」



「買い物支援のためのサービスが必要だ。」

みなさんをお願いしたいこと

ご本人の状況を詳しく把握することで、より具体的なアドバイスができます。このため、「地域ケア個別会議」でケアプランを検討することになった場合、担当のケアマネジャーやサービス事業所から、介護サービス利用者やご家族に生活について詳しくお話を伺ったり、服用している薬の内容や検査の結果などを教えていただくことがあります。御理解御協力を御願いたします。